

第7回永平寺町学校のあり方検討委員会 要点録

(2022年2月14日作成)

1	会議の名称	第7回永平寺町学校のあり方検討委員会		
2	会議の開催日時	2022(令和4)年1月26日(水) 午後7時~8時15分		
3	会議の開催場所	永平寺開発センター	公開の可否	可・一部不可・不可
4	事務局(担当課)	学校教育課	傍聴者数	6名
5	非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)			
6	協議事項	1 答申(案)について		
7	配布資料	● 「永平寺町内小中学校のこれからのあり方について」答申(案)		
8	審議等の内容	別紙のとおり		

第7回永平寺町学校のあり方検討委員会 要点録

(2022(令和4)年1月26日(水)開催)

開会

事務局

定刻になりましたので、第7回永平寺町学校のあり方検討委員会を開催します。

全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大していることもあり、町民指標の唱和については省略させていただきます。

それでは、委員長よりお願いいたします。

委員長

(あいさつ)

事務局

本日の委員会につきましては、24名の委員のうち15名の委員が出席しており、本委員会が成立していることを報告します。

では、この後の議事進行は、委員長よりお願いいたします。

委員長

それでは議題に入らせていただきます。

協議事項1 答申(案)について

委員長

前回の委員会で、すべての委員からご意見をいただきました。事務局と協議した結果、もう少し議論をしたいと思いましたので、もう一度答申の修正案をつくりました。

本日の委員会を最後の委員会としたいと考えており、できるだけ意見を取り入れたいと思います。修正箇所について、説明をお願いしたいと思います。

事務局

(答申(案)の修正箇所を説明)

委員長

今回は事前にご意見をいただいている委員もいらっしゃいます。お手元にご意見の書き起こしがございます。こちらにつきまして、委員より説明をお願いします。

委員

望ましいクラスの規模について、答申では教職員の調査結果のみが示されているのではないかと思います。また、20～30人が望ましいという点も、世界の流れより多く、教育上疑問です。理想のあり方として示されている1クラス当たりの人数は、もっと少人数ではないでしょうか。

小・中学生と高校生の調査の「ちょうどよかった」という意見をどう評価するか。人数の多い学校は、満足度が低いのではないかと

また、小中学校の統合を仕方ないと思う人が多いということについては、周辺地域の人口が占める割合からしても回答数が少なくなるのは当然なので、こういう評価を冒頭に入れるのはどうかと思います。

最近の調査で、子どものなりたい職業の第1位がユーチューバーとなっていました。タブレットを導入するという流れもありますが、今後求める方向性がこれでよいのかも、これからの教育のあり方で触れておくべきだと思います。

日本の教職員の勤務時間は OECD 加盟国の中で最も長く、職能開発にかかる時間が最も短いという結果を示す部分もあります。このことを政治の課題として明示すべきだと思います。

これからの教育の提言について、色々と示していますが、具体的な内容が見えず、どうなのかと思います。

望ましい教育環境について、子どもたちにとって集団・グループ学習が必要となる年齢がいつ頃からかという教育論的分析がないのか？

答申 16 ページの望ましい学級数の考え方について、「必要となります」と「望ましいと考えられます」の表現が混在しており、「望ましいと考えられます」で統一すべきです。

望ましい生徒数について、「1 学級 10 名以下の人数が常態化した場合は、よりよい環境とは言えないという結論でした。」とあります。現場の教員がその環境を最大限生かすということが見られないのは残念です。少なくとも、「10 人以下」という表現はきつくないか？

また、「1 クラスが 10 名未満の学級では、子どもたちの最適な学びを保障できない」とありますが、保障できないという表現はきつすぎると思います。学校の存亡は地域の存亡にも直結。それに直結するというのに先生は、そんな地域の現状も見えていないのかと思うと残念です。現に小規模校の方が学校への満足度は高くなっている。先生方の中で意見が一つにまとまるというのを聞くと異常に思っています。小規模校の成果・教訓は豊富にあるはずだが、それらが示されることのないのも異質だと思います。

学校、個々の評価はまずいと思います。南小については、再編協議が必要と提言でも出てくるが、個々名を繰り返し示すことも問題です。

20 ページで、「再編を実施する場合、子ども達の人数だけで…」の部分について、全体として統廃合すべきと言っている中で、こう示しても意味はあるのかと思います。

他自治体の例が示されているが、大きな学校でしか地域と学校の良い関係ができないのでしょうか？

学校と地域をつなぐコーディネーターは必要だと思います。しかし、地域の協力・連携について、学校側も一生懸命努力しているので、何も無い、不足しているという表現は問題があると思います。さらに強めるためにということならわかりますが。

学校の統廃合でしわ寄せはどこに現れるかと言うと、通う子ども達に精神的、肉体的に負担がかかる。2 つ目には遠距離になればなる程、経済的にも精神的にも保護者にしわ寄せがくる。

答申では「県・県内の高等教育機関と連携しながら研鑽を積み」とあるが、それができる環境を作ることが大事だと思います。

カリキュラムの統一はあまり強調すべきでないと思います。それぞれの学校で個性豊かな内容になっていることこそ尊重すべきではないでしょうか。

委員長

有難うございました。今のご意見について、他の委員はいかがでしょうか。

委員

子どもたちと直接関わっている立場ですが、現場の声がどこまで届いているのかという疑問があったので、先生方の意見を吸い上げていただいたのが良かったと思います。今のご意見については、皆さん色々のご意見があるので、難しいなと思います。

委員長

これまでの議論と現場の声をしっかりと答申に反映したいと思います。

また、前回もご指摘のあった生徒の規模や社会状況について追加の資料がありますので、副委員長より説明をお願いします。

副委員長

(追加資料を説明)

委員長

前回、委員から頂いたこれからの社会変化の良いところだけでなく、問題点についても答申に反映し、修正をしておりますし、本日、資料もお示ししました。学級の人数についても、最新のデータをお付けしました。これらを参考資料として答申に追加してもよろしいですか？

本日いただいたご意見につきましても、もっともだなというご指摘もございました。生徒の規模については、教員の意見だけでなく、保護者の調査結果も加えることは可能でしょうか？

事務局

答申に加えさせていただきます。ちなみに、保護者に対するアンケート調査結果では、小学校の1クラスの人数について、20人が最低必要というご意見だったというのが、教員調査との顕著な違いになっています。

委員

保護者の声を言っているのではないです。子ども達の見解のことを言ったつもりです。保護者の声だけで統廃合を進めて失敗しているケースがあります。保護者の声だけを重視するのは問題です。

委員長

先ほどのご発言で、「先生の意見しかない」ということでしたので、保護者の意見も併記すべきと思いました。子ども達については、どのような規模であっても非常に満足度が高く、大きいから満足度が低いとは、一概に言えません。保護者の意見も追記するということがよろしいでしょうか？

これまで何回も議論してきましたが、今回は、子どもたちにとって望ましい教育環境の整備をみんなで考えて答申にしようとしています。そして、それを具体的にするには、次のステージで地域と町当局が話をしていくことになります。

表現の統一については可能だと思います。

小規模校に関するご意見については、多分に答申の中に入れております。大規模校にも小規模校にもメリット・デメリットがあり、一概に決めつけることはできません。小さい学校では、いじめや不登校がないかと言うと、そんなことはありません。大きい学校では、必ず、いじめや不登校があるかと言うと、そんなこともあります。満足感についても両面あります。

統廃合についても、地域との協議によって、小規模校を存続させるという判断もあり、その場合は行政の特段の配慮が必要ということも、15 ページや 19～20 ページに書き込んでおります。数が少ないから即、統廃合という表現はしていません。

ふるさと教育のカリキュラムについては、これまでは、各学校がそれぞれで進めていましたが、これからは、みんなで探究して永平寺町を知ろうという大きなテーマに各校が取り組み、それぞれが勉強したことを交換するようなことが必要だというような思いなので、表現は変えてもいいかと思えます。

副委員長

子ども達の関わり合い、協働の学びというところが、これからの学校教育で大事になってきます。現在の永平寺町の先生方が挑戦していることと提言が平行していきますし、これからの未来社会を作っていく子ども達に、重要な力が育つことも期待されます。地域の人と知恵を絞り合いながら、地域全体の応援と支援が得られるような提言になっていると思います。今回、アンケートに回答してくださる地域の方がこれだけいるということは、統計的にもすごいことだと思います。

委員長

今日、欠席の委員からもご意見をいただいておりますので、事務局からお願いします。

事務局

全文、朗読します。「学校のあり方とか、コミュニティスクール事業についての意見は肯定も否定もしないが、学校の統廃合を学校のあり方検討委員会が合意したとか発表されるのは遺憾に思えます。統廃合は、行政側のお願いであって、地元地区住民との話し合いで合意するものであって、検討委員会が学校の統廃合を合意するものではない。」

委員長

今のご意見について、事務局としては、どう感じましたか？

事務局

この検討委員会は、統廃合に合意するというのではなく、教育長の諮問に対し、統廃合も含めた望ましい教育環境についての答申を作ることが目的ですので、当方とは認識が異なるのかなと感じました。

委員長

何回も言っている通り、ここで統廃合に合意するという性格のものではないということをご理解いただきたいと思います。今回の検討で得た色々な意見を、閉じたり隠したりしてはいけないと思

います。アンケートでも、全体的な意見だけで結論を出すのではなく、地区ごとの意識の違いなども分析し、すべてを明らかにして議論してきました。

委員

議会からは、「答申で統廃合とか再編に言及してよいのか」「多様な声を反映してほしい」「委員の意見を尊重していただきたい」という意見を預かっていることをお伝えします。

委員長

有難うございます。多様な声というところでは、今回、アンケートで3,800の回答を頂き、色々なご意見を頂きました。意見は一つではありませんが、それを包み隠さずオープンにデータを示したことは、大きな財産になると思います。

統廃合という言葉を使わないということになると、意図して情報を伏せることになります。答申を踏まえて、議会や町当局、地域の皆様が、具体的にお話していかなければなりません。私達は、あくまでも子ども達の将来の教育環境のために議論してきたということをご理解頂きたいと思います。

この答申、細かい文言の修正は事務局に預けて頂いて、私に取りまとめるということによろしいでしょうか？

委員

最後に、個々の学校の評価は記載するべきではないということは言っておきます。

委員長

それについても説明しましたが、全体の傾向と地域ごとの推計を示してアンケートに回答いただきました。その色々な意見を封印するということは委員長としてはできかねます。皆さん、どうでしょうか？賛成多数ということで、ありのままお伝えしたいと思います。

その他

事務局

(委員報償の件を説明)

委員長

3年間を通じ、たくさんのご意見をいただき、有難うございました。

<閉会>